



フォレストリーヴズ熊本所属、谷田病院職員

里 有紗さん (左)
Arisa Sato

サト アリサ/
フォレストリーヴズ熊本所属。
病院内では病棟でのリネン交換
や、食事介助、患者の身の回り
の世話などを担当。

川口 美久さん (右)
Miku Kawaguchi

カワグチ ミク/
今年3月でフォレストリーヴズ
熊本を退団。引き続き通所施設
での介助、送迎、運動補助など
の業務を担う。

バレーボールを通じて、 元気を与える存在になりたい

今回話を聞いたのは、熊本市を本拠地として活動するバレーボールチーム「フォレストリーヴズ熊本」の川口選手と里選手。二人とも長崎県出身で同チームでは先輩後輩の

仲。チームは現在、V1リーグへの昇格を目指し日々練習に励む傍ら、医療福祉施設など、スポンサー企業での社会貢献にも取り組んでいる。普段は宇城市の旧豊野小学校の

体育館でチーム練習を行いながら、チームスポンサーである谷田病院の通所施設や病棟のスタッフとして働いている二人。仕事とチームの掛け持ちについて、「患者様からいただく応援の音が嬉しく、すごく励みになっています」と、里さん。「チーム活動の際にはシフト調整など配慮してく

ださい、快く見送ってくれる病院の皆様には感謝の気持ちでいっぱいです」と川口さん。

甲佐町に対して何か貢献できることはないかと思っていたところ、同病院職員の立案により、甲佐小6年生にバレーボール教室を開催する話が持ち上がった。今年3月に実現した初授業では、「初対面だったにも関わらず、一生懸命に取り組んでくれる姿が嬉しかった」「授業のあと、一人ひとりから心のこもったメッセージカードをもらって感動した」と、笑顔をこぼす。

クラブ活動にバレーボールが無い甲佐小の児童たちにとって、現役選手との触れ合いは貴重な体験となったに違いない。「今後もバレーボールを通じて、甲佐町により多く関わっていかれたら」と話す。「機会があれば他の小学校や中学校でも開催していきたい。フォレストリーヴズの事を知らない人たちにも、バレーボールに興味を持ってもらえたら

嬉しい」と二人は話す。

この3月をもって12年間の選手生活を終え心機一転、同病院のスタッフとして勤務を継続することを決めた川口さん。「自然豊かで良い町だと感じる甲佐町。これまで良くしていただいた職場に少しでも恩返しをしたい、地域との関わりも持っていきたい」と前向きに話す。引き続き現役選手として活動していく里さんも「患者様や職員の方たちにも元気を与えられるよう頑張りたい」と前向きだ。

取材中、いつもと違うユニフォーム姿を目にして、笑顔で手を振る病院スタッフの姿からは、これまで職場で築いてきた良い関係性も伺える。4月から進む道が分かれる二人だが、今後も病院や町と繋がっていくことに変わりはない。同県出身、同チーム、同職場で良きチームメイトとして共に戦ってきた二人は、これからも町民に元気を、町に活力を与え続ける。